鶴川メンネルコール

Tsurukawa Männer Chor

創設20周年記念演奏会

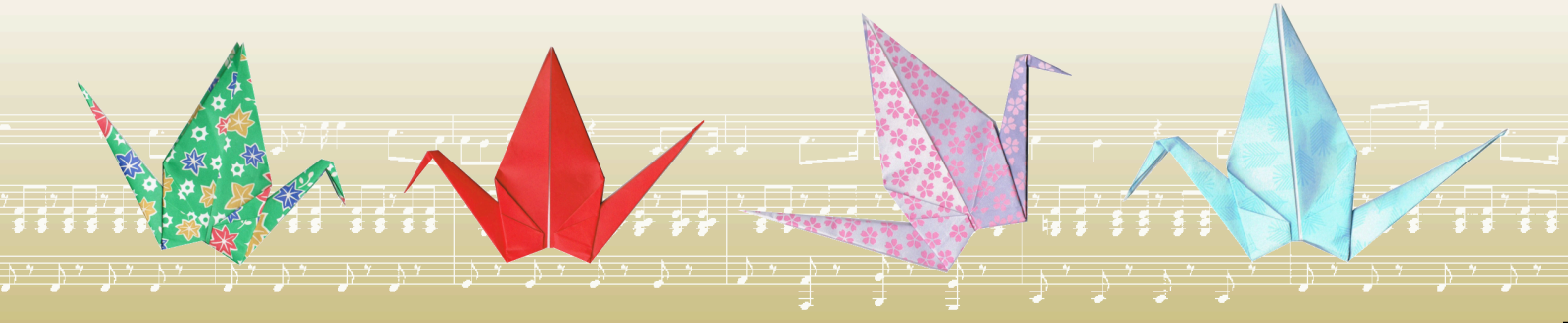
（第17回定期演奏会）

2026年11月27日（金）

13:00 開場　13:30 開演

会場：和光大学ポプリホール鶴川

後援　町田市合唱連盟　鶴川２丁目自治会



お祝いのことば

鶴川２丁目自治会　会長　北川もと

鶴川メンネルコール 創設２０周年おめでとうございます。

「退職した男たちでコーラスサークルをつくりたいのだが・・・」と、故早川勝さんからご相談をいただいた時、往年の“ダークダックス”や“ボニージャックス”の活躍を思い出して「いいですね、是非！」とお願いして４～５人のメンバーでスタートした「鶴川メンネルコール」、年を重ねるうちにメンバーも増え、活動の場も広がって、２丁目団地の集会所で開いていたミニコンサートも、鶴川市民センターのホールや和光大学ポプリホール鶴川での定期演奏会開催となり、会場いっぱいのお客様を集めるまでになりました。

２０年の間には皆さんそれぞれ年令を重ねてこられたわけですが、舞台の上では堂々として若々しく伸びやかな声を響かせていらっしゃいます。無伴奏の曲が多く指揮者のタイミングに合わせて心を寄せ合い、ハーモニーを楽しむ　♫コーラスはいいな♫　を実感するひとときです。

２丁目団地を越えて鶴川地区にメンバーが広がった「メンネルコール」の皆さん、どうぞこれからも元気でコーラスを届けて下さい。

ご挨拶

鶴川メンネルコール代表　山田貞雄

本日は鶴川メンネルコールの定期演奏会にお越しいただき誠に有難うございます。

２００６年に故早川勝先生のお声がかりで発足してから、今年は２０年目となりました。これまで皆さまからいただいた暖かいご支援に心から感謝申し上げます。２０２０年１２月に早川先生が思いもかけず急逝され、コロナ禍の中でもあり、方向を見失った時期もありました。幸い前指導者の志を継ぐ竹村繁樹さんにご指導をいただけることになり、今日に至っております。

今日は、皆さまとご一緒に楽しい時間を過ごすことができれば幸いです。

出演者の紹介

指　揮　竹村繁樹
ピアノ　鶴谷祐子

トップテノール	セカンドテノール	バリトン	バス
山﨑健司	岡本 修	牛島興成	田邉 充
池田勇五	板垣輝司	神田成栄	奥村紀夫
福本 博	井田耕治	鶴谷文彦	山田貞雄
柿谷 均	奥田耕治	稲留偉智	

Program

Ⅰ：デューク ・エイセス 「にほんのうた」ステージ

オランダ坂をのぼろう（長崎）	作詞：永六輔　作曲：いずみたく　編曲：宇多好生
君の故郷は（東京）	同上
いい湯だな（群馬）	同上
初恋の人は（佐賀）	同上
みすずかる（長野）	同上
十和田の底に（青森）	同上

Ⅱ：珠玉のアカペラ挑戦ステージ

雨後	作詩：三好達治　作曲：多田武彦
春を待つ	作詩：伊藤　整　作曲：多田武彦
梅雨の晴れ間	作詩：北原白秋　作曲：多田武彦
夢みたものは	作詩：立原道造　作曲：木下牧子
鷗	作詩：三好達治　作曲：木下牧子

--- 休　憩 ---

Ⅲ：創設２０周年記念ステージ

合唱団の成り立ち（２００６年の創設から、早川勝先生の紹介）
団員とスタッフの紹介
竹村繁樹先生のソロ（落葉松）
カルテット１（「ふるさとの四季」より紅葉、冬景色）
カルテット２（ともしび）
ピアニストの紹介（鶴谷祐子　「であうまち」　鶴川メンネルコールの合唱）
みんなで歌おう！（見上げてごらん夜の星を）

Ⅳ：もっとうまく歌いたい愛唱歌ステージ

U Boj	作曲：イヴァン・ザイツ　コール・バッカーズ版
夜明けのうた	作詞：岩谷時子　作曲：いずみたく　編曲：宇多好生
琵琶湖周航の歌	作詞：小口太郎　作曲：吉田千秋　編曲：宇多好生
行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って	作曲：G.ヴェルディ
上を向いて歩こう	作詞：永 六輔　作曲：中村八大　編曲：源田俊一郎

鶴川メンネルコール20年の歩み

- 鶴川メンネルコールが誕生したのは2006年10月でした。鶴川2丁目団地在住の指揮者早川勝先生が自治会に働きかけ、自治会活動の一環として合唱団を結成し、4名でスタートしました。
- 2007年から徐々に団員数も増え、演奏会で合唱を披露する機会も増えてきました。自治会主催の敬老会への出演やミニコンサートと称する定期演奏会の開催は、毎年恒例の行事になりました。2009年以降は町田市合唱祭への参加も恒例になりました。
- 同じく2009年以降、マイウェイという男声合唱団の一員として、東京男声合唱協会主催の演奏会に出演するようになりました。マイウェイは早川先生が指導しておられた4男声合唱団が合同で構成する合唱団で、多人数のハーモニーを楽しむ機会を与えてくれました。2015年、小田急沿線4男声合唱団交歓会への加入を勧められて初参加しました。その結果、5男声合唱団交歓会と名称変更になり、2018年にはその幹事団体を勤めました。
- その後2019年まで、鶴川メンネルコールは団員20名を超すまでに成長し、福祉施設でのボランティア演奏の機会も加わりました。しかし、2020年コロナ禍の始まりとともに、演奏はすべて途絶えてしまいました。そしてそのさなか、早川先生が病に倒れ、お見舞いも叶わない中、12月16日に他界してしまわれました。
- 2021年は、突然指導者を失い方向を見失った時期でしたが、幸い竹村繁樹先生が多忙な教員生活にも関わらず、後任に名乗りをあげてくれました。その新指揮者のもとで、2021年12月11日に早川先生追悼演奏会をいずみ浄苑の墓前で執り行い、翌2022年には久しく途絶えていた定期演奏会を再開しました。この演奏会では第2ステージを早川先生に捧げ、先生が作曲された3組曲からの抜粋を演奏しました。
- 2023年から、コロナ禍の影響を徐々に脱して、今日に至っています。昨年から新しく加わった団員の奥様、鶴谷祐子さんにピアノ伴奏をお願いできることになりました。それまでアカペラだけでしたが、現在はピアノ伴奏の合唱曲も演奏に加えることができるようになりました。
- 今年2026年は、6月15日に小田急沿線5男声合唱団交歓会の幹事団体を勤め、つい先日11月8日に町田市合唱祭に参加しました。そして今日20周年記念演奏会を迎える事ができました。
- この20年を振り返り、これまでに皆さまからいただいた暖かいご支援に心から感謝申し上げます。

歌う仲間募集

一緒にハーモニーを楽しみませんか　経験は問いません

毎週木曜日　pm3:30～6:00
練習場所　鶴川2丁目住宅管理組合集会所
会費　2000円/月　入会金　1000円
連絡先　042-735-6275 山田

https://www.tsurumen.net

こんな合唱団です・・・　現在17名、若い指揮者を除いて全員シニアと呼ばれる年代。それぞれ多彩な経歴の持ち主。俳句、絵画、スポーツなど趣味を持っている方も多々。このプログラムの見開きページの透かし絵も、メンバーの福本博さんが描かれたもの。月に一度練習後の懇親会で親交を深めています。

ステージの解説・曲目解題

Ⅰ：デューク・エイセス「にほんのうた」ステージ

オランダ坂をのぼろう（長崎）
「オランダ坂をのぼろう　港を見下ろそう・・・」「オランダ坂の二人は　腕組み肩ならべ・・」長崎の観光スポットを歌い、最後は「ちゃんぽん」でしめます。
　なお　Ⅰ、Ⅳステージで「編曲：宇多好生」とあるのは、早川先生のペンネームです。

君の故郷は（東京）
　「教えてくれ君の故郷を　聞かせてくれ・・」全国各地方からの出身者には、夫々の故郷があります。「潮騒 せせらぎ 青い海 深い森」等々郷愁を覚える言葉の数々。

いい湯だな（群馬）
　解説不要でしょう。一緒に温泉に浸った気分で、八木節や浪花節をうなりませんか。

初恋の人は（佐賀）
　「初恋の人は　壱岐 対馬へだてて・・・」「別れていくとせ　今 唐津の浜に・・・」「初恋の人は 玄界灘の果て・・・」と、ヤマタイの昔に想いを馳せる歌です。

みすずかる（長野）
　「みすずかる信濃の国の・・・」　と、信濃の風景・風物を愛でる歌です。

十和田の底に（青森）
　「にほんのうた」シリーズの記念すべき第一作。冷たく澄み切った十和田湖の思い出。

Ⅱ：珠玉のアカペラ挑戦ステージ

雨後
　「一つまた一つ雲は山を離れ夕暮れの空に浮ぶ」誰にでも思い出のある風景。「山は新緑の襟をただし」「杉の林に発電所の灯がともる」等々詩人の表現が新鮮です。

春を待つ
　「ふんわりと雪の積もった山かげから、冬空がきれいに晴れ渡っている」北海道の冬、春がちらりと顔をみせるが、まだまだ遠い・・・そんな季節です。

梅雨の晴れ間
　「まわせまわせ水車」というフレーズが繰り返されます。梅雨の晴れ間の田舎芝居の設営に、灌漑用の足踏み水車が大活躍。隈取りを塗った役者が身振りよろしく踏み出す花道の下でも、まだ水車がまわっている・・。村人総出で田舎芝居を楽しむ雰囲気が伝わります。

夢みたものは

「夢みたものは一つの幸福、願ったものは一つの愛」ではじまり、静かな村の生活、娘たちの歌や踊りに触れて、最後は「それらはすべてここにあるよ」と歌って終わります。

鶫

「ついに自由は彼らのものだ」というフレーズが繰り返されます。自由に空を飛ぶ鳴の姿に、戦争で失われ今ようやく自由を得た若者たちの魂を重ねています。深い鎮魂の歌です。

Ⅳ：もっとうまく歌いたい愛唱歌ステージ

U Boi　（ウ ボイ）

クロアチアのザイツの作曲。戦いに赴く兵士を描いた合唱曲。行進曲風の力強いリズムに続き、美しい祖国を叙情的に歌います。男声合唱団の定番曲として広く親しまれています。

行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って

ヴェルディの歌劇「ナブッコ」の中で歌われる「ヘブライの捕虜たちの合唱」。早川先生の訳詞がとてもすばらしいので下にそれを紹介します。歌を聞きながら追ってみて下さい。歌詞５行目まではユニゾン（４部とも同じ旋律）で歌います。バビロンの地に捕らえられ、過酷な奴隷生活を送るヘブライの民が、故郷の美しさと失われた祖国を偲びます。その想いが次第に高ぶって、６行目から４部合唱になります。９行目からまたユニゾンに戻って「苦しみに耐える勇気を目覚めさせよ」と悲痛な祈りとなって終わります。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って

さあ行け、我が想いよ　黄金の翼に乗って
甘いそよ風が薫れる　祖国の丘に憩わん
ヨルダン河やシオンの塔
壊されしうるわしき故郷
予言を奏でる竪琴　何故に黙しているのか？

胸の想いに火を点けよ　去りし時を語れよ！
祖国と同じ運命の　辛い悲劇　語れ
あるいは主のみわざの　うるわしき響きで

我らの苦しみに耐える　勇気を目覚めさせよ！
勇気を目覚めさせよ！　勇気を目覚めさせよ！
目覚めさせよ！

みんなで歌いましょう

見上げてごらん夜の星を

見上げてごらん　夜の星を
小さな星の　小さな光が
ささやかな幸せを　うたってる

見上げてごらん夜の星を
ボクらのように 名もない星が
ささやかな幸せを　祈ってる

手をつなごう　ボクと
追いかけよう　夢を
二人なら　苦しくなんかないさ

＊　最初に戻り、２段繰り返し